



金屋町通信

発行元：金屋町まちづくり協議会
発行責任者：般若陽子
編集責任者：般若慎一郎

創刊のご挨拶

金屋町まちづくり協議会は会長はじめ役員体制を一新して新たにスタートし、これを機に活動の一環として金屋町通信を発行することにしました。金屋町の動きなどを適宜住民の皆様にお伝えし、地域全体の相互コミュニケーションを向上することが目的です。不定期の発行になりますが、どうぞよろしくお祈りいたします。

盛大に御印祭を開催

6月19～20日に恒例の伝統行事である御印祭が盛大に開催されました。住民の皆様のご協力に感謝申し上げます。19日の前夜祭には石井県知事夫妻、高橋市長、橘衆議院議員、河合北日本新聞社長夫妻らが訪れ、祭りの賑わいに花を添えていただきました。

また高岡鋳物資料館では祭り当日の19～20日は入館無料とし、特に19日は21時まで延長して開館し多くの訪問者がありました。



新保昭一さんがご逝去



長年にわたり、金屋町にとどまらず西条校下、高岡市、富山県などのいろんな公職を歴任され、地域の発展に尽力された新保昭一さんが逝去され、6月12日に葬儀が行われました。ご冥福をお祈りします。

金屋7町の統合に向けて

この4月から金屋町の自治会統合に宮川町が加わり、古町・上町・中町・西町・東町・宮川町の6町が統合された金屋町（加藤昌宏自治会長）として活動しています。残るは金屋本町だけとなりましたが、校区が異なることから生じる問題を解決して統合に向かう見込みです。なお自治会統合の動きに伴って、金屋町拡大会議が定例開催され、金屋町の全体最適を迫及する自治会活動へと変化しており、御印祭実行委員会の強化などに着実な統合効果が表れています。

金屋開町400年へ向けて

昨年は高岡開町400年でしたが、前田利長公が高岡城へ入場して2年後に西部金屋の7人の鋳物師を呼び寄せたことから、金屋町は来年が開町400年にあたります。そこで自治会として、ま

たまちづくり協議会として、開町400年記念事業の開催を考えています。いくつかのアイデアがあるようですが、具体化するのはまだこれからです。住民の皆様からもアイデアを出していただければと思います。

旧映画資料館が

工房・ギャラリー柑塙（かんか）に

金屋古町ポケットパーク向かいの旧映画資料館が、若手金工作家グループの工房兼ギャラリーに生まれ変わります。鋳金・彫金・鍛金を中心にした手作りのクラフト作品を制作・展示し、制作工程を見学できるオープン工房になる見込みで、7月中にはオープンする予定です。

代表者は工房 think 代表で高岡市伝統工芸産業技術者養成スクール講師などを務める槻間（つきま）秀人さん。メンバーは槻間さんの教え子達約10名で女性が中心です。工房名の柑塙（かんか）は文字通りるつぼのこと。

金屋のまちなみの賑わいに、若手工芸作家グループが一役買ってくれることが期待されます。



金屋町の各種団体役員を確認

5月22日に公民館において、金屋町全体の定例総会が開催されました。その中で金屋町の各種団体の役員体制が確認されましたが、以下が各団体

長です。

弥栄節保存会会長 加藤昌宏、金屋緑地公園愛護協力会会長 梅田陽男、金屋町まちづくり協議会会長 般若陽子、金屋町消雪組合組合長 島祐次、金屋町公民館館長 島祐次、高岡市鋳物資料館館長 般若慎一郎、金屋町鳳鳴グリーン会会長 般若慎一郎、金屋町婦人会会長 中山晃子、金屋町青年協議会会長 四津川晋、金屋町児童クラブ会長 片山雅之。

なお、さまのこフェスタ実行委員会は発展的に金屋町楽市に統合したことから解散しました。

金屋町まちづくり協議会

まちづくり協議会は6月29日に今年度第1回の役員会を開催し、当面する事業案を協議しました。今年度の役員は次のとおりです。

顧問：黒谷他律雄、加藤昌宏、梅田陽男、会長：般若陽子、副会長：般若慎一郎(広報担当)、棚田義宏(まちづくり担当)、神初良子(おもてなし観光担当)、事務局長兼会計：松原孝、書記：金森悦子、監査：島祐次、鍋谷登、相談役：蜂谷俊雄(金沢工業大学教授)、上野幸夫(富山国際職芸学院教授)、樋詰和子(高岡市市議会議員)、幹事：新保公章、藤田浩市、木村昌俊、宮浦修一、中村真一、内島美乃里、金谷義信、串田幹夫、森田義夫、四津川晋(金屋町青年協議会)、中山晃子(金屋町婦人会)、新保智子(町なみを考える藤グループ)、麻喜八郎、竹中勝治、藤田正英、金森仁志、今井一朗、小泉昇、大寺康太、四津川元将、畠弘政、関谷隆行、喜多章江。

2010金屋町楽市

今年で第3回になる「金屋町楽市」は9月17日にシンポジウム、9月18・19日に町並みでの展示が予定され、現在作品出展者を募集しているところです。